

職員による自己評価

A環境面

バリアフリーではないが特に不自由していない。

子供たちの成長と共にスペースの確保

B児童への支援内容

学習と曜日別プログラムは保護者の方から評判が良い

C関係機関との連携

療育センターは情報を共有している。
送迎時の対応を再確認している。

D保護者への説明責任・信頼関係

契約時や日々の連絡帳、面談などで確認、様子などを話している。

E非常対応

特になし。

保護者による評価

A環境面

少し狭い。

B児童への支援内容

活動内容が固定化されず満足している。

C事業所からの情報発信

連絡帳で日々の様子を教えてくれる。

D非常対応

避難訓練の実施状況が曖昧である。

事業所内での分析

【共通点】

連絡帳等でしっかりと連携が取れている。

【相違点】

避難訓練の実施が曖昧である。

保護者側から指導室訓練室が狭いのではないかという指摘を受ける。

分析・検討してみて…

事業所の強み

毎日の通所でも、プログラムが様々なので、長い時間居ても楽しむことが出来る。
日々の学習時間が子供に苦痛なく、でも楽しく行うことが出来るような教室作りをしている。
親との連携がしっかりとれる。
指導員が子供目線になって一緒に過ごすことが出来る。

事業所の改善点

避難訓練の実施状況の周知がなされていない。
ビルが古いため、バリアフリー等の気遣いが無いので何かいい方法はないか。
より良い療育を何かすることは出来ないか。

事業所の改善への取り組み

避難訓練等を実施する際には事前事後報告を徹底する。又、色々な曜日で実施できるようにすることにより全児童に参加してもらえよう工夫する。
衛生面に気を付け安心して過ごせる場にする。
より良い療育を行えるよう、指導員研修を毎月行い、社外の研修にも積極的に参加するようにする。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～